

通り過ぎる場所から、過ごす場所へ。



ヨコハマニシグチ
OPEN PARK
 #01 エキマエ

FUTURE PUB' LIC
 ヨコハマニシグチ



横浜西口エリアマネジメントとは

横浜西口エリアの活性化や賑わいづくりの様々な取り組みを行うために、前身の横浜西口元氣プロジェクトを発展させるかたちで 2017 年 4 月に設立。イベントやワークショップなどの企画運営、横浜西口の情報発信やプロモーション、防犯や環境美化活動、まちのインフォメーション事業などに取り組みながら、横浜西口をより楽しく魅力的なまちにしていこうと目指しています。

正社員

園高島屋 園横浜岡田屋 園 JR 横浜湘南シティクリエイティブ 園ルミネ 園横浜西口南和会商店街 園西口幸栄商店街 園横浜西口五番街商店街協同組合 園ミツウロコ 園イオンモール 園谷川商店 園相鉄ホテル 園相鉄アーバンクリエイティブ 園相鉄ビルマネジメント

地域パートナー

西日本電信電話 園大林組 園オカムラ 園島建設 園加藤組 園川本工業 園日本コロニー 園東急不動産 園 NTT ドコモ 園日建設計 園松田平田設計 園三井住友銀行 園三井住友信託銀行 園横浜銀行 園独立行政法人都市再生機構

横浜駅西口振興協議会

相鉄ホールディングス 園 園高島屋 園 JR 横浜湘南シティクリエイティブ 園ルミネ 園相鉄アーバンクリエイティブ 園日本橋本木 園相鉄ビルマネジメント 園横浜岡田屋 園相鉄ホテル 園横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ 園学校法人岩崎学園 園積金工業 園 園百ゼネラル 園キャメロットジャパン 園谷川商店 園安田倉庫 園 ミツウロコ 園 横浜西口南和会商店街 園西口幸栄商店街 園 横浜西口五番街商店街協同組合

FP 運営パートナー

オンデザインパートナーズ
 園 ondesign 園 KONOPELLI
 横浜の建築設計事務所。住宅から公共建築、まちづくりや拠点運営まで幅広く手がけています。

ココベリプラス
 日常生活で自然と触れる機会のない現代の人々に都市部の水辺の環境学習を提供しています。

リップカレントプロダクション
 園 RCP 園 TOKUBA
 横浜にある音楽プロダクション。音楽を通じて地域の活性化などにも取り組んでいます。



FUTURE PUB' LIC ヨコハマニシグチ
 <アクセス> 相鉄横浜駅みなみ西口より徒歩3分
 <お問合せ> mail: info@yokohamanishiguchi.or.jp
 <オープン> (月)11時-16時 (火)15時-19時 (水)13時-17時
 ※イベントなどで変更することがあります。詳細はウェブサイトにて。



特集!

ヨコハマニシグチ OPEN PARK

ヨコハマニシグチ
OPEN PARKから始まる、西口の未来

ヨコハマニシグチ OPEN PARK #01 エキマエで見た風景

駅前広場って、どんな場所でしょうか?「通勤通学時に通るだけ」「バスやタクシーの乗り換え場所」「人と待ち合わせする場所」。そんなイメージを持つ人も多いかもしれません。2025年5月23日(金)・24日(土)の2日間、横浜駅中央西口駅前広場で開催したヨコハマニシグチ OPEN PARK #01 エキマエでは、その「いつもの駅前広場」に、少し違う風景が生まれました。この背景には、「エキサイトよこはま 22」におけるコンセプトである“HUMAN ENERGY CORE—ひとにやさしい空間—”と、人が歩いて巡り、滞在し、交流できるウォーカブルなまちづくりの考え方があります。人が主役となり、誰もが心地よく過ごせるまちを目指す考え方を、まずエキマエから確かめてみよう。そんな思いから、OPEN PARK #01 エキマエはスタートしました。

右：空間の創り方によって、人の動きが変わった駅前広場
 下：日常の横浜西口中央駅前広場



無機質なコンクリートだった駅前に、芝生や植栽、テーブルやチェアが置かれ、イベントや飲食を楽しむ人が集まり、これまで足早に通り過ぎていた場所で、立ち止まり、座り、会話をする姿が見られました。子どもが走り回り、大人がそれを見守りながら一息つく。待ち合わせが、そのまま「過ごす時間」に変わる光景もありました。今回は、**公共空間である駅前広場を“パーク”のように使ってみる社会実験**として、駅前に3つのゾーンを設けました。そうすることにより、いつもとは異なる多様な過ごし方が生まれ、「居られる場所」があるだけで、人の行動は変わることが、誰の目にもわかる形で表れていました。

駅前に現れた3つのゾーン



ストリートピアノやジャズライブで人が集う賑わい・イベントゾーン



芝生や植栽、パラソル・ソファなどでくつろげる居心地の良い空間ゾーン



キッチンカーやマルシェで飲食や買い物を楽しめるマルシェ・飲食ゾーン



設営から見れるイベント動画も公開中!!

左：いつもとは異なる夜の風景
 下左：アンケート調査風景
 下中央：自由に逆立ちに挑戦する



当日はアンケートも実施し、343票の回答を得ました。満足度は「とても満足/やや満足」が92.7%、同様の取組があれば「再訪したい」が95.0%と、多くの方から前向きな声が寄せられています。特別な施設を新しくつくったわけではありません。それでも、駅前広場が一時的に“パーク”になることで、人の過ごし方や空間の使い方が確かに変わる。OPEN PARK #01 エキマエは、その可能性を示す2日間となりました。

OPEN PARKとは—公共空間から、西口の未来を考える社会実験

OPEN PARKは、駅前だけを変えるためのイベントではありません。横浜西口エリア全体を、もっと人にやさしく、居心地のよいまちにしていこうための取り組みです。駅前広場や道路、川沿いなど、まちの中には誰もが使える公共空間がありますが、それらは「通る」「移動する」ことが優先され、立ち止まったりくつろいだりする使い方は十分に想定されてきませんでした。OPEN PARKでは、そうした公共空間を舞台に、芝生やベンチ、イベント、ちょっとした仕掛けを一時的に取り入れ、人がどのように過ごし、どんな使われ方が生まれるのかを確かめています。



デジタルサイネージでも告知しました

—最初から完成に向けて工事しない。

最初から完成形を作るのではなく、「まずはやってみる」「使ってもらう」「反応を見る」。使いながら考え、気づきを積み重ねて、これからの横浜西口にふさわしい公共空間のあり方を探っていく。OPEN PARKは、2025年よりスタートした、そんな社会実験の場です。

#01エキマエは出発点。西口全体の未来へ、続いていく

OPEN PARKは、駅前だけを対象とした取り組みではありません。都市再生推進法人である横浜西口エリアマネジメントが中心となり、横浜西口エリア全体の公共空間を、より人にやさしく、居心地のよい場所にしていこうためのプロジェクトです。今回の#01は、その最初のテーマにすぎません。駅前という“まちの顔”で得られた気づきや利用者の声は、道路や広場、川沿いなど、西口に点在するさまざまな公共空間を考えるうえで大切なヒントになります。

OPEN PARKでは、実際に空間を使ってみて、「ここがよかった」「もっとこうだったらいい」といったまちの声を集めながら、西口の未来を考えていきたいと考えています。ぜひ、次回の社会実験にも足を運んでいただき、感じたことを声にしていただくことが、横浜西口をみなさんと一緒につくっていく第一歩になります。OPEN PARKは、使う人・訪れる人とともに横浜西口を育てていく取り組みです。次は、どんな場所で、どんな時間が生まれるでしょうか。これから少しずつ変わっていく西口の未来を、ぜひ一緒につくっていきましょう!



人だけでなくペットフレンドリーな#01エキマエ

2026年度も横浜西口エリアの公共空間にて開催予定!

特集!

FUTURE PUB' LIC ヨコハマニシグチ リニューアル

2017年に当エリアマネジメントの地域拠点としてオープンした「FUTURE PUB' LIC ヨコハマニシグチ」は、横浜西口の未来を考え、実験し、実装へとつなげる“まちの実験室”として活動してきました。相鉄ムービルを拠点に、毎週テーマをもって定期オープンしながら、トークイベント、配信、ワークショップなどを通じてまちの魅力や課題を可視化し、新たな取り組みを生み出してきました。

2026年4月、本拠点は横浜ビブレの川向かい、幸川沿いの路面へ移転し、リニューアルオープンしました。人通りの多い立地へ移ることで、これまで以上にまちに開かれた場へと進化しています。また、水辺に近接する環境を活かし、公共空間との関係性を意識した活動の広がりも期待されています。



移転前のFP



移転後のFP

より、まちにひらく、新しい拠点へ

空間コンセプトは「**まちのポップアップストア**」。移転を機に、“まちの実験室”としてのこれまでの取り組みを発信しながら、新たな試みを段階的に実践していく場へとアップデートしました。まちの人の反応や需要を確かめるテストマーケティングの場としても機能し、今後のまちづくりに活かしていきます。



窓はフルオープンで通りから直接アクセスできます
 展示ウォール
 水槽もお引越しウナギがいるよ
 小上がりのステージで講演会や発表会も
 面積も広くなりました
 人工芝を外側から連続させ、まちとの境界をやわらかくつなぎ、活動がにじみ出る設えに

現在の定期オープンは、毎週月曜日にリップカレントと音楽好きが集まる「まちの音楽室」として動画配信を実施。水曜日は、オンデザインと高校生チーム FP TEENS がイベント準備に取り組んでいます。木曜日には、ココベリ+と平沼生物研究部による川の生物調査が行われています。ジャンルや世代の異なるチームで、それぞれの得意なことや「街でやってみたいこと」を持ち寄ることで、自然な交流が生まれています。今後多様なジャンルの方々にも活用していただき、横浜西口から新たなコミュニティが広がっていくことを目指しています。



今後は定期オープンに加え、水辺の利活用や公共空間の実証実験、地元商店街や自治体との交流、トークイベント、展示活用などを通じて、まちに開かれた発信と実践の場としての役割をさらに強化していきます。「FUTURE PUB' LIC ヨコハマニシグチ」は、これからも横浜西口の未来をつくる実験の場として、新たなコミュニティと活動を生み出し続けていきます。ぜひお気軽にお立ち寄りください!

地域パートナー



活動年表 2025

PICK UP !!

2/6

夜の西口を歩いてみよう！
ヨコニシ会議

地域活性化サポーターとエリアマネジメント事務局・運営パートナーのメンバーで集まり、夜の横浜西口エリアのまち歩きを行いました。歩いてみた時のまちの印象や、やってみたいことを共有し合い、移転先の FP での活動を妄想するなど、メンバー間の親睦を深める会となりました。



3/20

リニューアルオープン
GREEN EXPO 2027 カウントダウンフェス Vol.1

GREEN×EXPO2027 の開催まであと 1 年という節目のイベントとして、「GREEN EXPO 2027 カウントダウンフェス Vol.1」を開催しました。フラワースポットでは来場者へお花のプレゼントや和楽器の演奏や芸者による「花の舞」、茶室体験、フラワーワークショップ、パルーンアート、ダンスパフォーマンス、ハンドメイドマルシェ、キッチンカー出店など、花に関する様々な体験ができるブースを横浜西口エリアに設置し、その各所にはデジタルスタンプラリーや AR フォトスポットなどを連動させ、エリアを回遊しながら楽しめるイベントとなりました。



AR フォトスポット

芸者「花の舞」

また、帷子川ではインクルーシブカヤック（障がいの有無にかかわらず全ての子どもが共に楽しむカヤック）や、老朽化した手すりを塗り直す参加型の手すりアートなど、気軽に体験できる企画も用意し、多くの方に参加いただけました。2027 年 3 月開催の GREEN×EXPO2027 に向けて、今年度は多くの関連イベントを開催予定なので、ぜひご参加ください。



手すりアート

インクルーシブカヤック

動力船運航社会実験

横浜市都市整備局主催の社会実験を夕方～夜の時間にかけて行いました。



マグネットフィッシング

新田間川で金属製のゴミを強力なマグネット釣り上げ、空き缶 8 本、自転車 5 台等を回収しました。



クリーンアップリレー



4 チームでリレー形式で清掃を行い、合計 29kg のゴミを拾いました。

水辺の利活用勉強会 vol.1

水辺の活用事例を学ぶ勉強会を開催し、災害に備え水辺の街を活性化させるグリーンインフラについて知識を深めました。



水辺の利活用勉強会 vol.2

勉強会第 2 回目は、宇都宮市釜川周辺エリアでの取組を事例とし、人と生きものの居場所づくりから考えるエリアリノベーションを学びました。



GREEN EXPO 2027
カウントダウンフェス Vol.1



ヨコハマエキキタニシグチ
鶴屋ナイト

パブリックスペースを活用し「食」と「映画（アート）」を軸に社会実験を行いました。



ヨコハマニシグチ
OPEN PARK

表面へ

鶴屋町
クリーンアップリレー



ヨコハマローズフェスタ 2025

マルシェでは色とりどりのお花が並び、横浜駅の西口と東口でお花にまつわる様々な企画が行われました。



つるやちようアーバンフェス Vol.3

横浜駅きた西口から続くはまレールウォークと、THE YOKOHAMA FRONT 前タクシーロータリーにて、BMX やダブルダッチのアーバンスポーツイベントを開催しました。キッチンカーの出店もあり、多世代が集まる賑やかな景観づくりにつながりました。



ヨコハマ西口
ハロウィン 2025

ヨコハマ西口 TEENS PARTY 2025



平沼高校
地域貢献活動

10/26 神奈川大学学生による什器制作
ヨコハマ西口ハロウィン 2025

神奈川大学の建築学部の学生が主体となり、はまレールウォークでのイベントに向けた什器制作を行いました。学生自身が現地調査から設計、制作、設置までを担い、公共空間を舞台にした実践的なプロジェクトとなりました。はまレールウォークに残る旧線路から着想を得て、「いつもとは違う視点から西口を眺め、新たな魅力を発見してもらいたい」をコンセプトに設定し、電車の車窓をイメージしたフレーム付きのマルシェテーブル・ベンチ・ハイテーブルを制作しました。イベント当日は岩崎学園の方々を使用いただき、今後のイベントでも継続的に活用する予定です。

【学生からのコメント】

- ・「横浜らしさって何だろう？」と改めて考える時間になりました。普段何気なく過ごしている街を知るきっかけとなり、前よりも横浜のことが好きになりました。
- ・多様な人が自然に使える形状や寸法を検討する中で、実際の利用シーンを想定した設計の難しさを学びました。



制作什器と神奈川大学建築学部の学生たち

11/13 横浜 FC「フリ丸」も参加
横浜平沼高校の地域貢献活動

エリアマネジメントが毎年協力している、神奈川県立横浜平沼高等学校と地域貢献活動を実施しました。今年はクリーンアップに 160 人、防犯パトロールに 38 人の生徒が参加しました。クリーンアップでは、普段利用している街の中にも多くのごみがあることや、街の環境が誰かの取り組みによって守られていることを改めて認識する機会となりました。生徒からは「今後も清掃活動を続けたい」「ごみを出さないよう心掛けたい」といった声があがり、地域への関心と貢献意識の高まりが伺えました。また、横浜 FC の公式キャラクター「フリ丸」も参加し、来街者の注目を集めることにも、生徒も一緒に楽しく活動していました。防犯パトロールでは、自治会や警察の方々と街を巡回することで、地域の安全が多くの人々によって支えられていることを実感し、防犯意識の向上にもつながりました。今後も安心・安全なまちづくりの推進に取り組んでまいります。



11/15・16 今年で第 2 回目の開催！大型音楽イベント
YOKOHAMA WESTSIDE【C-MAP FES】

今回の C-MAP FES では、前回の開催で認知度も高まったことにより様々な世代から出演応募があり、さらなる盛り上がりを見せました。イベント運営者のリップカレントの松岡さん、伊藤さんの熱い想いをお聞きました。「横浜はオシャレな独自の音楽の文化があり、経験や知識もあるベテラン世代と若い世代の接点を作ればおもしろい発展ができるのではないかと考えています。また継続的に音楽ができる場所を求めている人が多いため、大都市でありながら、そのような場所と機会の創出の余地がある横浜西口はポテンシャルが高く、C-MAP FES がその 1 つになればと思います。課題もありますが、今後の展開として、イベントのエリアを拡大したり、コンテストやオーディションを開催してみたりして、横浜を音楽文化の発信源となるような、大人の夜遊びができるような街にしていきたいです。」



2/24 鶴屋町エリアでは初開催！
鶴屋町クリーンアップリレー

クリーンアップリレーとは、街の事業者さん、自治会、商店会、行政の方々と一緒に 4 つの区間を 1 区間 30 分ずつリレー形式で清掃を行う活動です。その 30 分を「トングのバトン」でつなぎ、横浜西口の街を参加者のみなさんと綺麗にしました。これまでは、南幸エリアで実施していたクリーンアップリレーですが、今回は初めて「鶴屋町エリア」で実施しました。落ちていたゴミの種類や量によって異なり、街のゴミの現状や課題を共有することができました。また、街の清掃の時間を共にすることで、地域の交流の機会にもなりました。

